

平成30年度西総合支援学校 学校評価実施報告書（後期）

1. 「確かな学力」の育成に向けて

重点目標

児童生徒が継続的にキャリアアップすることを目指し、個別の包括支援プランによる支援を行い、児童生徒の「生きる力（生活の質を高める力）」を育む

①学校評価アンケートの結果について

保護者および教職員を対象に「学校評価にむけたアンケート」を実施した。各質問項目について、「重要度」と「実現度」を4段階で回答するようにし、7点・5点・3点・1点として集計した。集計結果の「実現度」が5.0以上であるということは、解答結果の平均が上から2番目の「だいたいできている」よりも良い評価であるということになる。実現度が4.0ならば、「どちらでもない」という評価を表している。

【保護者：実現度 5.5 以上】

- ・包括支援プランに願いが反映されているか。・生き生きと学習，活動しているか。
- ・包括支援プランに基づいた授業実践が行われているか。
- ・分かる目標が具体的に示されているか。
- ・学習に取り組みやすい状況づくりや支援がされているか。

【教職員：実現度 5.5 以上】

- ・生き生きと学習，活動しているか。
- ・音楽や創作など芸術的な学習に取り組んでいるか

【教職員：実現度 5 未満】

- ・研修会等に積極的に参加し，自己研鑽を行なっているか。

②自己評価

【分析（成果と課題）】

- ・確かな学力に関するアンケート項目について，保護者の回答は「児童生徒のよりよい変容」以外は5.5を超えており，「だいたいできている」という評価になっている。特に，「児童生徒が学習に取り組みやすい状況づくりや支援はされていますか」という質問項目では昨年度より実現度が0.2高くなっている。
- ・教職員の回答もほとんどが5.0を超えているが，「研修参加など自己研鑽」については，重要度が6.2と高いわりに実現度が4.5と比較的低かった。研修への参加や自己研鑽の必要性を感じながらも，現状では足りていないと考えている教職員が多いことがうかがわれる。
- ・教職員の回答で，「生き生きと学習・活動」「芸術的な学習」の項目については年々数値が上昇傾向であり，教職員が授業作りにおいて長期的・将来的なヴィジョンを持って計画しようとしていることや，児童生徒の個性や長所を見出し伸ばすことを意識して取り組んでいることがうかがえる。

【分析を踏まえた取組の改善】

- ・全体では一定の評価を得ているが，教職員が必要とする研修に参加する機会を提供し，効果的に専門性の向上を図るためのシステムを整備する必要があると思われる。
- ・今後も継続的キャリア・アップを意識した授業作りを意識し，児童生徒が適切な状況づくりや支援があれば「できる」存在であるということを前提に，授業改善を行なっていく。

③学校関係者評価（第3回および第4回学校運営協議会）

- ・西総合では学校運営協議会で意見が出た，学校だよりの配布やペットボトルの回収など地域と連携した活動を学習に取り入れている。今後も是非継続されたい。協力できることがあれば取り組んでいきたい。

2. 「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

学校や地域の中でできる成功体験を積み重ねることにより、自己の将来に夢や希望を持ち、自らの人生を切り拓こうとする力を育てる

①学校評価アンケートの結果について

【保護者：実現度 5.5 以上】

- ・児童生徒は自分なりの方法で挨拶しているか。
- ・教職員の児童生徒に接するときの言葉遣いや態度は適切か。

【教職員：実現度 5.5 以上】

- ・児童生徒は自分なりの方法で挨拶しているか。
- ・コミュニケーションを豊かにする取組が行われているか。

【教職員：実現度 5 未満】

- ・リサイクルや環境学習に取り組んでいるか。

【教職員：実現度 4.5 未満】

- ・性と生に関する学習に取り組んでいるか。

②自己評価

【分析（成果と課題）】

- ・保護者の回答は「自分なりの方法で挨拶」「教職員の言葉遣いや態度」の設問ともに 5.5 であった。教職員アンケートにおいては重要度に比較して実現度が低い傾向が見られ、重要であるが徹底がはかれていないと感じている教員が多いことがうかがわれる。
- ・「性と生に関する学習」（教職員）については、重要度、実現度ともに大きな上昇がみられるものの、双方を比較すると実現度が低く、必要性に対して十分な実践ができていないと感じている教職員が多いことがわかる。

【分析を踏まえた取組の改善】

- ・「教職員の言葉遣いや態度」に関しては、研修で共通理解を深める取組を徹底する必要がある。
- ・研究授業で性と生に関する学習を取り上げるケースもあるなど、取組を進める方向性はみられるものの、引き続き最優先の課題ととらえ、取り組みたい。

③学校関係者評価（第3回および第4回学校運営協議会）

- ・子どもが高等部に入学してから、毎日楽しく学校に通っている。表情がとても明るくなった。クラスの友達との関係も良く、保護者として安心している。地域の方や学校運営協議会委員の方にも声をかけてもらえることがたいへん嬉しい。
- ・教員の表情が硬く、少し気になった。一生懸命にやろうとする気持ちが伝わってくるが、先生方が笑顔で接することで、子どもたちが安心できると思う。

3. 「健やかな体」の育成に向けて

重点目標

自分の体と心に気づき、環境とのかかわりの中で、より健康で安全な生活を送ろうとする意欲と技能を育てる

①学校評価アンケートの結果について

【保護者：実現度 6 以上】

- ・日常の健康観察を確実にこなしているか。
- ・発作など緊急時に組織的対応ができていますか。

【保護者：実現度 5.5 以上】

- ・施設等の保守点検、安全管理は確実にされているか。
- ・児童生徒の基本的な生活習慣は確立されているか。

【教職員：実現度 6 以上】

- ・ 日常の健康観察を確実にこなしているか。
- ・ 発作など緊急時に組織的対応ができているか。

②自己評価

【分析（成果と課題）】

- ・ 保護者の回答は 6 を超えているものもあり、「日常の健康観察」の設問では 3 年間継続して上昇が見られる。
- ・ 「災害・緊急時の対応」（教職員）については、5 年間数値が上昇傾向にあり、緊急時シミュレーション等の取組が一定の効果をあらわしていると考えられる。今年度、地震等の大きな災害が続き、教職員や保護者の防災の意識が高まっている。避難訓練や緊急時シミュレーション等の取組をさらに充実させていきたい。

【分析を踏まえた取組の改善】

- ・ 引き続き、災害・緊急時の対応についての共通理解をすすめ、教職員・管理職ともに役割分担を明確にし、周知をはかる必要がある。
- ・ 児童生徒の障害や疾病に対する深い理解と、それに基づく指導を推進するため、今年度、医療福祉コーディネーターを配置した。教員へのコンサルテーションで大きな効果が見られた。教員と連携した取組を今後も続けていきたい。

4. 学校独自の取組

重点目標

地域や保護者との連携を深め、学校と地域の双方向の援助による新たな「地域」の創造を図るとともに、地域の障害のある児童生徒、保護者、教員のキャリアアップを支援する「育」支援センターを機能させる

①学校評価アンケートの結果について

【保護者：実現度 6 以上】

- ・ 学校預り金は適正に執行されているか。

【保護者：実現度 5.5 以上】

- ・ 教職員と保護者との連絡は十分か。・ 個人情報の管理に注意が払われているか。
- ・ 学校の取組が情報発信されているか。・ 地域資源の活用を行なっているか、

【保護者：実現度 5 未満】

- ・ 適切に専門家を活用しているか。

【保護者：実現度 4.5 未満】

- ・ 育支援センターの取組内容を知っているか。

【教職員：実現度 6 以上】

- ・ 学校預り金は適正に執行されているか。

【教職員：実現度 5.5 以上】

- ・ 事務関係書類は適切に処理されているか。・ 学校の取組が情報発信されているか。
- ・ 学校教育目標を意識して教育活動に取り組んでいるか。
- ・ 教職員と保護者との連絡は十分か。・ 教職員間の情報交換・共有化を図っているか

【教職員：実現度 5 未満】

- ・ PTA 活動に積極的に関わっているか。

②自己評価

【分析（成果と課題）】

- ・ 「地域資源の活用」について、保護者アンケートではこの 3 年間で上昇傾向が見られる。また「保護者・地域への情報発信」についても、上昇傾向にある。
- ・ 「学校運営協議会の取組内容」に関しては、昨年度設問を具体的にしたため、芝生まつりなど継続的に取り組んでいる行事等が学校運営協議会主催の取組であるとの理解が得られ、数値が上昇した。

- ・「専門職（ＳＴなど）の活用」に関しては、保護者の重要度がここ３年間で顕著に上がり、関心や必要性の認識が高まっていると推察される。それに対し、実現度も上昇傾向ではあるが、今年度の数値は 4.5 であり、「だいたいできている」という評価には至っていない。教職員については実現度が 5.5 と昨年度より大きく上昇したが、重要度と比較すると低い数値であり、保護者、教職員ともに十分な活用までには至っていないと認識していることがうかがわれる。

【分析を踏まえた取組の改善】

- ・引き続きＰＴＡ活動や地域連携についての共通理解をはかっていく必要がある。
- ・専門家の活用のあり方は多様であり、教職員が専門家から指導に関する助言や示唆を受けて日々の教育実践に反映させていくのも「専門家活用」なので、このような広義での専門家活用の実態が保護者・教職員に伝わるような情報発信の必要がある。また、アンケートの設問の再検討も必要である。

③学校関係者評価（第３回および第４回学校運営協議会）

- ・地域と連携した取り組みは継続して進めているが、学校のある西京区と比較して、右京区の行政やコミュニティとのつながりが薄い。居住地校交流がすすめられている一方、子どもたちが居住している地域のコミュニティとの繋がりが課題である。キーパーソンとなる方が必要である。
- ・学校周辺の地域に学校だよりを配布する等の学習は定着している。以前は教員が配布していたが、学校運営協議会の意見を反映して子どもたちが配布することになった。子どもたちと接する機会が増えて喜んでいる。学校だよりをもう少し読みやすくしてほしい。